

二〇二二年一月一日(参加者一九名)

芋の葉を乱れ打ちして通り雨
芋の葉に隠れて並ぶ無縁墓
芋の葉のそよぐほとりに道祖神
尾ひれつく人の噂のうそ寒き
御祈祷の順待つまでのうそ寒し
掴みたる箸より逃ぐる子芋かな
理科室の人体模型うそ寒し
文字薄れ読めぬ表札うそ寒し
裏方に徹し皮むく芋煮会
うそ寒や耕作放棄増え続け
芋の葉の風をいなして相打たず
子ら去にて空らの寢室うそ寒し
八つ頭迷ふ刃の入れどころ
あひまひにうつ相づちのうそ寒し
うそ寒し間分にのこりし手鑿跡
うそ寒し強権跋扈せる世界
うそ寒や不審メールの絶ゆるなし
落ちさうで落ちぬ雨粒芋広葉

素 秀
素 秀
もとこ
もとこ
豊 実
豊 実
ぽんこ
ぽんこ
豊 実
豊 実
明日香
明日香
なつき
なつき
明日香
明日香
せいじ
せいじ
あひる
あひる
みづき
みづき
はく子
はく子
かかし
かかし
せいじ
せいじ
満 天
満 天
満 天
満 天

子らたかり見て喝采や芋水車
うそ寒や日暮の鐘の間遠より
うそ寒や動く歩道を駆ける人
うそ寒し老いて身長縮むとは
うそ寒し休耕田にブルドーザー
芋の葉の雨滴ころころ七変化
うそ寒や真夜をつんざく救急車
消えさうに瞬く星やうそ寒し
職引きて自産自消の芋煮汁
よう子
わかば
かかし
明日香
よう子
こすもす
豊 実
智恵子
なつき

WEB句会みのる選・二〇二二年一月一日